

大きな愛で人にやさしい

2024年 4月
ナンバー60号
帯広市議会議員
大林愛慶
おおほやし やすよし
後援会ニュース

新年度予算可決

第1回帯広市議会は2月28日から3月26日まで開催され、一般会計931億円、特別会計886億円、企業会計148億円となり合計1,966億円の新年度予算、条例の制定(公マネ基金新設)・改正など質疑も行われ可決成立しました。

今回「予算審査特別委員会委員長」に選任され、福祉・子育て・教育・経済など市民生活を守り発展させる予算の審議ができたと考えています。

一般質問では全国的に止まらない「少子化」「東京一極集中」の問題と改善策、また高齢化に伴う「ひとり暮らし高齢者の見守り」や「訪問介護」の強化にむけた質疑を行いました。(裏面参照)
人口減少の抑制と、人口構成の変化による適応と課題解決できる地域社会を築いていかななくてはなりません。

後援会総会・新春のつといを開催



「太田恵二」新 後援会長



来賓「石川かおり衆議」「米沢のりひさ市長」

2月23日に開催されました「大林やすよし後援会総会・新春のつとい」では、新後援会長に太田恵二さんを選出いただきました。郵便局時代の同じ部署の大先輩です。会長からは、地方から市民の声を国政に届けるため、来る「衆議院議員選挙」へ向けた協力をお願い・あいさつをいただきました。私もしっかり活動の強化を進めてまいります。

進む人口減少への対策

昨年の全国の出生数は厚生労働省の速報値では「75万8,631人」と推計、前年度比「4万人」の減少となり少子化を全く止めることができていません。

またコロナ禍で一時的消気味であった「東京一極集中」は再び進み、東京都の転入超過者は約3万8,000人となりました。

帯広市の2023年「出生数が905人」、「死亡数が2,181人」と自然動態は「1,276人の減少」です。

「転入者数が7,403人」、「転出者数が7,699人」と社会動態では「296人の微減」です。



現在の人口ピラミットの形では、「生産人口の減少に伴い産業の事業継続に危機」「地域の活力の衰退」「社会保障制度の崩壊」「地域コミュニティの機能不全」「さらなる少子化の拍車」など、影響を及ぼすと考えられています。

「妊婦・子育てに優しい社会なのか」「職場の労働環境改善は進んでいるのか」「ともに子育てできる保育環境は充実しているのか」社会全体の変化が必要です。

地域の見守り強化を！

65歳以上の高齢者の数は2024年1月末現在で「4万9,664人」となり、高齢化率は「30.6%」となっています。75歳以上の後期高齢者も増えてきている状況です。

要介護認定者数も、1号被保険者の数は「1万684人」となり、「認定者数率が21.6%」、「約4人に1人」近くの状況となっています。

高齢者一人ひとりが、住み馴れた地域で、健康で充実した生活を送ることができるよう、「健康寿命の延伸と介護サービスの充実」が重要な取り組みとなります。

帯広市では「高齢者ひとり暮らしの世帯」は「1万8,036件」で、ひとり暮らし高齢者「登録者数」は「1,817人」と約1割の状況で、見守り強化のためには登録者を増やしていく必要があります。



公共施設等整備保全基金

(公マネ基金)の創設

「27億6,500万円」

日常からの見守りと、災害時要援護者支援体制づくりの強化が急がれます。

また、民生委員の充足と、介護職員の処遇改善・訪問介護サービスの充実により、健康管理・生活支援・安否確認・コミュニケーションの維持など、重症化を招かないための大切な事業です。帯広市では訪問型サービスの「てだすけサービス」の支援強化も新年度から進めていきます。